

ローマ神話の美の女神「ウエヌス（ビーナス）」の名を持つ惑星

金星は夕方や明け方の空にひときわ明るく輝いて見えることで古来から知られています。地球に近く、太陽の光を反射する雲で大気が覆われているため、明るく見えるのです。

金星は、二酸化炭素を主成分とする厚い大気で覆われていて、地表付近の気圧は90気圧です。温室効果で地表の温度は約470度と高温です。これは、太陽に最も近い惑星、水星よりも高い温度です。

さらに、金星の厚い大気は、自転の60倍にもなる速さで回転していて、「スーパーローテーション」と呼ばれています。

大きさも質量も地球によく似ている金星は「地球の双子」と言われることもありますが、その環境は地球と大きく異なっているのです。

金星

太陽からの平均距離：1億820万km

大きさ(赤道半径)：6,051.8km

質量(地球=1)：0.815倍

平均密度：5.24g/cm³

公転周期：0.6152年=224.548日

自転周期：243日

衛星の数：0



金星 宵の明星

対称的な2つの呼び名

金星は地球より内側の軌道を公転しています。そのため見かけ上は太陽から大きく離れません。真夜中に見えることはなく、日の入りの後、西の空に「宵の明星」として、日の出の前、東の空に「明けの明星」として見えます。

2021年の金星の見え方

2021年12月ごろまで「宵の明星」として見えます。夕方から宵のころに西の空でひときわ明るく輝きます。

およそ1か月に一度の頻度で、細い月と並びます。

月の暗い側が地球に反射した太陽光によって照らされることでうっすらと見える「地球照」を伴った月との共演をぜひ楽しんでください。

移り変わって見える季節の星座、そのなかを惑うように動く金星。金星の近くに見える星座がどんどん変わっていくように感じます。金星を目印に、星座さがしもしてみませんか。

